

平成30年度 加古川中学校 学校自己評価

1 学校教育目標 「自らを律し、共に学び合う生徒の育成」 ～一人一人を伸ばす～

- 2 本年度努力目標**
- (1) 知・徳・体をバランスよく育て、「生きる力」を育む教育の推進
 - (2) 校区ユニットの活用による学校・家庭・地域の連携と開かれた学校づくりの推進
 - (3) 生徒の学力向上を図るための学習指導の工夫・改善
 - (4) 学校の組織力及び教職員の資質能力の向上
 - (5) いじめ防止対策改善プログラムの推進による「いじめを許さない学校」づくり

3 自己評価と改善の方策

評価基準				
A: できている	B: だいたいできている	C: あまりできていない	D: できていない	E: わからない
努力項目	評価項目(具体的な実践目標)	達成状況	改善の方策	
(1)「豊かな心」の育成	あいさつ・会釈を励行する	A	校門での挨拶運動、授業の始め・終わりの挨拶、部活動での徹底など、学校全体で積極的なはたらきかけを行う。	
	清掃や片付け	C	清掃場所や人数配置などの工夫、具体的な清掃方法の指導を行い、時間内しっかり取り組めるように改善を図る。	
	道徳心、人権意識の高揚	B	道徳の授業を中心に、教科授業や行事など、学校生活全てを通して、命を大切にすることを心や人権意識を養いたい。	
	居心地の良い学級づくり	A	一人一人の生徒を「褒める」「認める」「活躍の場をつくる」など丁寧に寄り添った指導を学年・学校で心がける。	
	生徒会活動の活性化	A	生徒会の活躍はめざましい。生徒一人一人が自立した活動ができるよう、係や担任だけでなく全ての職員が支えていきたい。	
(2)「確かな学力」の育成	進んで学習に取り組む	B	生徒がより主体的に学べるよう授業改善を行い、学習意欲を高めたい。課題を工夫し、家庭学習も具体的に指示する。	
	基礎的・基本的学力の定着	B	基本的な学習習慣(忘れ物や提出物等)の徹底を行い、授業を大切に、基礎学力の定着を進める。朝学習の活用法を工夫したい。	
	授業改善の工夫	A	ICT機器の活用や協同的探求学習など、新学習指導要領に対応した授業研究や研修への積極的な取り組みの奨励。	
(3)「健やかな体」の育成	校舎内外の環境整備	A	校舎の老朽化もあり、大切に使用する意識付けをする。定期的な安全点検を行い、報告・連絡を徹底し、悪い所をそのままにしない。	
	部活動の活性化	A	競技としての強さだけでなく、中学生としてのマナーや集団としての達成感をめざす。活動と休息のけじめをつけ、健康にも配慮する。	
	安心・安全な学校づくりの推進	A	登下校での通学マナーや、安全確認の意識を高める指導を強化する。生徒会を中心に安心・安全な学校生活を呼びかけていきたい。	
(4) 生徒指導・特別支援教育の充実	時間を守る	B	まず教職員が率先垂範し自分から動く。チャイム着席や登校時間、下校時間など、時間を守る習慣を身につけさせたい。	
	服装を正す	A	「服装の乱れは、心の乱れ」服装や髪を整えるだけでなく、一人一人に向き合った指導を、全教職員で行えるように努める。	
	いじめを決して許さない集団づくり	A	アンケートや教育相談を活用し、早期発見・早期対応ができる体制を整える。自分を大切に、他人も大切にできる心を養う指導を行う。	
	教育相談の充実	A	教育相談週間を設定し、相談体制の充実を図るとともに、スクールカウンセラーや外部の関係機関と連携をとり丁寧に対応する。	
	個別に支援が必要な生徒への対応	B	担任・学年だけでなく、特別支援や生徒支援担当と情報を共有し、MS、SSW、SCや関連機関と連携した体制を構築する。	
(5) 開かれた学校	学校行事の工夫	A	行事の目的や効果を検討し、PDCAサイクルを活用した反省や見直しを大切に、これからも工夫していきたい。	
	開かれた学校づくり	A	学年通信やメールによる情報提供により、学校への関心は高まっている。ホームページを充実し、さらなる情報発信に努めたい。	
	トライやる・ウィークの推進	A	保護者から、活動の成果の大きさと、事業所の方への感謝の声も多く、地域の協力を得ながら、活動に向けた取組を充実させたい。	
(6) 今年度の重点	「主体的・対話的で深い学び」	B	教科部会を中心に、生徒が主体的に取組み、対話を中心にしてしっかり考えられる授業を行い、学習を深められる授業への取り組みを強化する。	
	道徳の教科科へ向けた取り組み	A	全国大会のプレ授業を中心に、授業研究を行った。教科書・副読本を活用した年間計画や、評価方法の研修を深める。	
	勤務時間等の業務改善	C	校務分掌の再構築や校務支援ソフトの活用を強化し、部活動と共に業務の改善を行い勤務時間の適正化を行う。	